

一般社団法人 日本助産学会ニュースレター

第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会について

実行委員会委員長 福井トシ子

現時点、2月13日現在における第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会の主要プログラムについて概略を紹介します。今後、多少の変更があるかも知れません。ご了承ください。
みなさまの事前登録をお待ちしております。

1. 主要プログラムについて

第1日目 7月20日(月)

Public Lecture (市民公開講座) 13:00~15:00

“Staring at the Origin of Assistance for Raising Child and Family

～ What I Learned Through My Experience Supporting Children with
Life-threatening Illness and Their Families～”

(「子育てと家族を支える原点を見つめる～難病の子どもと家族への支援を通して～」)

演者: 大住 力 (公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を 代表理事)

座長: 福井 トシ子 (公益社団法人 日本看護協会 常任理事)



Program for the Development of the Next Generation (次世代育成事業) 15:30~16:30

※横浜市との共催。中高生対象の内容となる予定。

“The Future of Having a Baby in Japan” (「これからの日本で子どもを産むということ」)

演者: 河合 蘭 (出産ジャーナリスト)

座長: 淵元 純子 (ふちもと助産院)

Information Exchange 1~6 (自由集会1~6) 13:00~14:00、14:15~15:15、15:30~16:30

- ・“Breastfeeding Help and Support” (「母乳育児支援」)
- ・「女性の寄り添う助産教育を考える」
- ・「もはや産科では、子供は産まれない? 「混合病棟」における分娩の安全と質を考える」
- ・「アジア・アフリカの助産ケアを考えよう!」
- ・「助産診断名の臨床への応用—電子カルテにどのように導入するか—」
- ・「ペリネイタル・ロスのケア～体験者の声を聴こう」

Workshop (90分)

“Introduction to Research Methods”

Organizer: Judith McAra-Couper, ICM Research Standing Committee

WHO Panel (90分)

“Quality of Care - the Latest WHO Guidelines, Tools and Materials”

Organiser: WHO

第2日目 7月21日(火)

Opening Ceremony & Flag Ceremony (開会式&フラッグセレモニー) 9:00~10:30

President Lecture (会長講演) 10:45~11:25

“Midwifery Care for Every Mother and Their Newborn”

(「すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを」)

演者：坂本 すが (公益社団法人 日本看護協会 会長)

座長：高田 昌代 (一般社団法人 日本助産学会 理事長)

Keynote Address (基調講演) 13:40~14:20

演者：Frances Day-Stirk (ICM President)

座長：加納 尚美 (茨城県立医療大学 保健医療学部看護学科 教授)

Special Lecture 1 (特別講演 1) 14:30~15:10

“Support for the Midwifery Activities in Asia: ~The Establishment of the Vietnamese Association And Mongolian Association of Midwives”

(「アジアにおける助産師活動支援~ベトナム助産師会とモンゴル助産師会の立ち上げから」)

演者：南野 知恵子 (元参議院議員)

座長：岡本 喜代子 (公益社団法人 日本助産師会 会長)

Special Lecture 2 (特別講演 2) 15:20~16:00

“Obstetric Compensation System and Clinical Safety”

(「産科医療補償制度と周産期における医療安全」)

演者：後 信 (公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部部長)

座長：村上 明美 (神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部看護学科長・教授)

Education Lecture (教育講演) 16:15-17:15

“Learning Kristeller Maneuver from the Original Paper”

(「原著に学ぶクリステレル胎児圧出法」)

演者：池之上 克 (公益社団法人 日本母性衛生学会 理事長)

座長：福井 トシ子 (公益社団法人 日本看護協会 常任理事)

Regional Meeting 11:30~13:30

Workshop (ワークショップ) 各 90分

“Postpartum Care” (「今、求められている産後ケア」)

演者：市川 香織 (産前産後ケア推進協会、文京学院大学保健医療技術学部 看護学科 准教授)

坂梨 薫 (関東学院大学 看護学部看護学科)

萩原 玲子 (武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町 センター長)

座長：安達 久美子 (首都大学東京 健康福祉学部 看護学科 教授)

井本 寛子 (日本赤十字社医療センター 看護副部長)

“Apply Research Evidence to Midwifery Practice” (「エビデンスを助産実践に活かそう」)

演者：大田 えりか (国立成育医療研究センター研究所)

村山 綾子 (東京大学大学院 医学系研究科アドバンストナリング テクノロジー講座)

永森 久美子 (聖路加産科クリニック)

座長：江藤 宏美 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻 教授)

井村 真澄 (日本赤十字看護大学 母性看護学 助産学 教授)

WHO Related (3時間)

- 1) WHO-UNFPA workshop on introducing direct entry midwifery where there is no faculty - regional lessons learned
- 2) ICM-WHO workshop on tobacco cessation
- 3) WHO workshop on the new WHO Midwifery Educator Core Competencies tool

第3日目 7月22日 (水)

Symposium (シンポジウム) 各 90分

“ICM - Twinning Projects” (「助産ケア-2 国間相互支援プログラム」)

演者：谷口 初美 (九州大学大学院 医学研究院 保健学部門 助産学 教授)

Speakers from Vietnam, Australia, Papua New Guinea

座長：Mary Kirk (ICM Asia Pacific Regional Board Member), Nester T. Moyo, ICM

“Support of Mothers and Children in Preparation for Disasters”

(「災害に備えて母子支援をしよう」)

演者：Karen Guillard (NZ)、Corazon L. Paras (Philippines)、
真坂雪衣 (石巻赤十字病院 病棟看護師長)
八木橋香津代 (スズキ記念病院 看護部長)
座長：中根直子 (日本赤十字医療センター 看護師長)
五十嵐ゆかり (聖路加国際大学 母性看護学・助産学 准教授)

Workshop (ワークショップ) 各 90 分

“Learn the Professional Skills from Japanese Independent Midwives”

(「日本の助産師の技を受け継ごう」)

演者：山本 詩子 (山本助産院)、神谷 整子 (みづき助産院)、矢島 床子 (矢島助産院)
座長：片岡 弥恵子 (聖路加国際大学 看護学部 准教授)
横山 いずみ (総合母子保健センター愛育病院 助産師長)

“Utilizing the Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice ~ Let's Learn from the Actual Cases!~”

(「助産実践能力習熟段階 (クリニカルラダー) の活用～取組事例から学ぼう!～」)

演者：安田 陽子 (一般財団法人倉敷成人病センター周産期センター看護副師長)
大城 洋子 (かみや母と子のクリニック)
久保 絹子 (東邦大学医療センター大森病院 看護師長)
砥石 和子 (杏林大学医学部附属病院 看護師長)
村田 佐登美 (社会医療法人愛仁会高槻病院 産科病棟 看護科長)
座長：原口 眞紀子 (旭川医科大学病院 看護部)
宮川 祐三子 (地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター 看護副部長)

“Making the Case for Midwifery: A Toolkit for Using the State of the World's Midwifery 2014 Report to Create Policy Change at the Country Level”

Speaker: TBD

Facilitator: Family Care International (FCI), ICM

“The Global Fund Financing Facility in Support of Every Woman Every Child”

Speaker: Frances Day-Stirk, ICM President

Chair: Nester T. Moyo, ICM

Closing Ceremony (閉会式) 15:30~16:00

<その他プログラム>

- ・ランチョンセミナー 7月21日、22日
- ・一般演題 (口演・ポスター) 7月21日、22日
- ・エクスカージョン (病院・助産院の見学) 7月21日

<催事>

- ・ICM 関係団体懇話会 7月20日
- ・懇親会 7月21日

2. 演題登録について

平成27年1月29日に演題募集を締切り、計690件の応募があった。

3. 参加登録について

～4月30日	5月1日～6月17日	7月20日～7月22日
早期事前登録	通常事前登録	当日登録
30,000円	40,000円	50,000円

※全登録期間において、助産学生5,000円／大学院生：10,000円

Midwifery and quality care: findings from a new evidence-informed framework for maternal and newborn care.

Renfrew MJ, McFadden A, Bastos MH, Campbell J, Channon AA, Cheung NF, Silva DRAD, Downe S, Kennedy HP, Malata A, McCormick F, Wick L, Declercq E. Lancet 2014;384:1129-1145
 「助産と良質なケア：母子ケアに関する根拠に基づく新たな枠組みからの知見」

Lancet : Midwifery特集の一番手となる論文である。筆頭著者は英国ダンディー大学母子研究ユニットのRenfrew教授であり、ブラジル、スペイン、中国、USAの研究者との共著である。本論文で作成した「母子ケアの質に関する枠組み "The framework for quality maternal and newborn care"」は、これに続くMidwifery 2および3でも用いられている。今回は、この枠組み作成の経緯、枠組みの内容について報告する。そして、次号にてその枠組みに基づき明らかとなった効果的なケアについて報告予定である。

助産は質の高い母子ケアに大きく寄与するというコンセンサスが高まる一方で、助産実践に一貫した定義を適用できないことが助産の理解を制限している。その結果、専門職と非専門職が混在し、その多くは部分的にしか助産ケアを提供していない。本研究では、まず助産の定義を確認し、母子ケアの質の枠組みを考案した後、その枠組みがあらゆる状況の妊産婦およびその子どもと家族が必要とするケアの特性を説明できるか試行した。本研究で採用したmultimethod approachは、従来のシステムティック・レビューの過程の一部を用いたり解釈的な統合法の利点を利用して、一連の関連資料および結果を統合可能にするものである。枠組みは、低所得、中所得、高所得すべての状況から抽出した35編の共著者で且つ専門家の意見と共に骨子が作成され、3つのシステムティック・レビューからその根拠となる分析を考慮し、洗練さ

せた。また、過渡期にある3つの中所得国であるブラジル、中国、インドにおける最近の開発から得た教訓も活用した。

完成した枠組みは、ケア提供者、哲学、価値、ケアを構成するもの、実践分類、の5層から成る(図1参照)。また、層の1つである実践分類は、対象を「すべての母子」と「合併症のある母子」に分けている。各層に含まれる項目の具体的な内容は、本文Figure2を参照されたい。この枠組みは、労働力開発や資源の分配、あるいは教育カリキュラムを計画する際、そして今後の研究のためのエビデンス・ギャップを認識する際のケアの質の評価に用いることができる。また、人口動態と健康、利用可能な資源、そして個々の保健システムが機能する政治的、社会的、文化的文脈に関する特定の要求を満たすよう適合させることもできる。

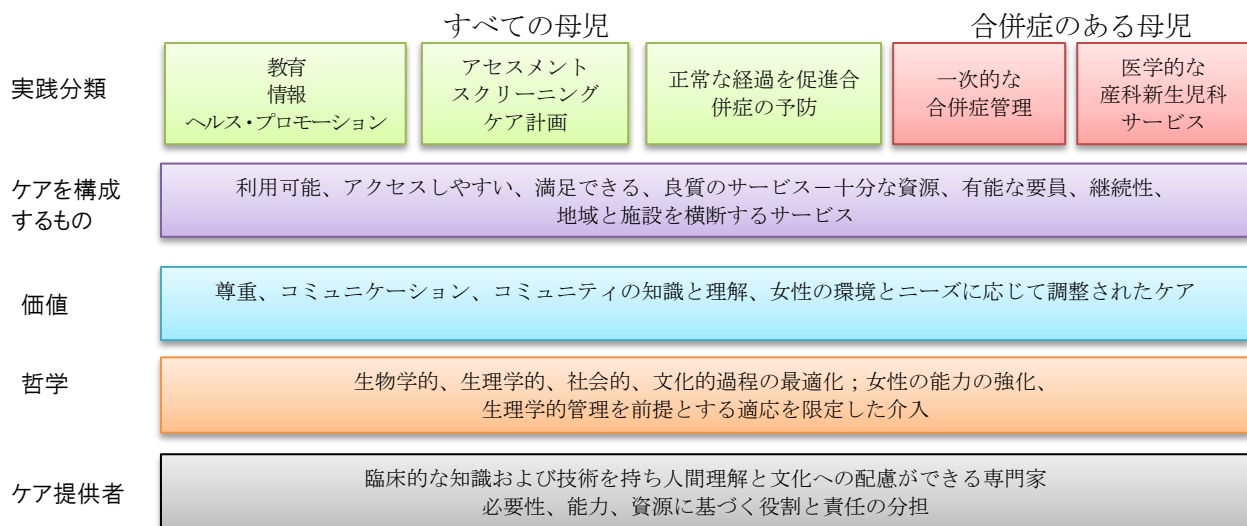


図1：母子ケアの質の枠組み (Lancet 2014; 384:1132 Figure2を一部改編)

はじめに

「助産業務ガイドライン2014」は、2009年に助産所の業務ガイドラインとして誕生したのが初版となります。

本ガイドラインは2回目の改訂であり、関連医師団体、助産団体からも委員として参画いただき、院内助産にも適応できる「助産業務ガイドライン2014」として昨年3月に完成しました。今回の改訂の大きなポイントは「助産所業務ガイドライン」から「所」が省かれた点です。全ての助産師の指針となるように策定されています。

1 ガイドラインの活用について

この5年間で院内助産や、開業助産師がオープンシステムを利用するなど、新たな出産環境の提供が増えてきました。助産師は働く場所が異なっても扱う業務は基本的に同じであることが検討委員会で確認されました。助産所では本ガイドラインを指針とした頂きたいこと、院内助産においては医師との物理的・心理的距離が近いことに留意し、適切な報告を遅滞なく行うことなどを述べています。

2 妊婦管理適応リストについて

助産師はどのような妊婦を取り扱うのか、医師と協働管理する妊婦はどのような対象か、産婦人科医が管理すべき対象者とは、について述べています。特に院内助産では、各施設の実情に応じた変更を行い、活用することとしています。今回の改訂では助産師が扱う範囲を拡大し、かつ、それぞれの根拠となる解説を加えています。また、社会的リスクのある妊産婦の取り扱いについても触れています。

3 正常分娩急変時のガイドライン

分娩、産褥、新生児期の急変時の対応として、医師に相談すべき状況、緊急に搬送すべき状況とともに、産科危機的出血への対応フローチャート、新生児の蘇生法アルゴリズムなど、重要な参考資料を盛り込みました。今回、全ての急変時の対応に加えられたのは「観察と判断の視点」です。分娩期では迅速な観察や判断が求められます。また、新生児期では必ずしも症状が明確でなく、複合的な場合も多いため、判断の視点のポイントを示し、観察内容とその方法、アセスメントの視点を記述

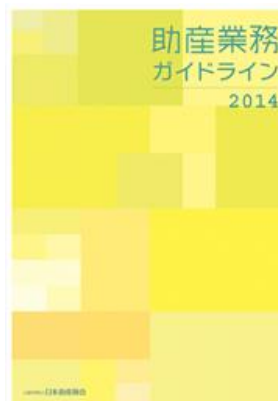
しました。

4 「ガイドライン」範囲の拡大と「医療安全上留意すべき事項」について

前版までは、「助産所における分娩の適応リスト」と「正常分娩急変時のガイドライン」が「ガイドライン」の範囲でしたが、第3版では、院内助産、助産所における活用を解説した「ガイドラインの活用について」と、「医療安全上留意すべき事項」を含めた範囲に拡大しています。「医療安全上留意すべき事項」は以下の12項目です。①助産師と記録、②妊娠期の定期健康診査、③医師・助産師・妊産婦の連携記録、④常位胎盤早期剥離の保健指導、⑤骨盤位の外回転術、⑥分娩期の胎児心拍数聴取、⑦人工破膜、⑧新生児蘇生、⑨早期母子接触、⑩新生児のビタミンK投与、⑪胆道閉鎖症早期発見のための母子健康手帳便色カードについて、⑫GBS陽性、未検査妊婦から出生した児について、となっています。

おわりに

本ガイドラインはチーム医療を重視し、医師、助産師、そして妊産婦の連携を強調しています。この3者が互いに合意し、協力し合ってこそ安全で快適な出産が実現できます。本ガイドラインは、臨床場面に役立つように観察ポイントやその場での対応などを簡潔明瞭に示しています。臨床の場で広く利用されることを期待いたします。まれには個別の妊産婦をケアする上ではガイドラインの内容が当てはまらない場合も想定されます。その際には、十分その必要性と適応を考え、その理由を助産録へ記述してください。5年後の改定に向けて助産学会の皆様からも幅広くご意見を賜ればありがたいと考えております。



ICM募金継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。ICM 支援のための募金を常時受付けておりますので、引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ICM 募金振込先

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフード基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

事務局からのお知らせ

今年度平成27年度会費(10,000円)納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、会費納入がまだお済でない方は早急に下記まで、氏名・会員番号等を通知の上、お振込みをお願いします。

選挙のお知らせ：今年度は代議員および理事の選挙の年です。選挙人になるには、2015年度会費を6月末までに納入済の方が対象となりますのでご了承ください。

・郵便振込：00120-2-763540 加入者名：一般社団法人日本助産学会
通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込：ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(セロイチキュウ)店(019)(当座) 0763540
一般社団法人日本助産学会(シヤ)ニホンゾウサカケカイ 氏名と会員番号を通知

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログイン頂き、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム：<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問合せ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

学会誌等送付にはクロネコメール便を利用しますので、転送届けをしても届かない場合があります。変更届は必ずお出しください。また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、表示も合わせてよろしくお願い申し上げます。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない場合、会員継続となり、年会費をお納めいただくことになります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～26巻は2,500円但し26巻2号別冊の[エビデンスに基づく助産ガイドライン]は3,000円、27巻は3,500円(各1部)。日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

【一般社団法人日本助産学会事務局】 ※日本助産学会事務局は2014年6月23日より下記へ移転しました。
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F 株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内
TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852 E-mail: g019.jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

